



●今月の表紙●

angler: 戸張 誠  
field: 相模湖  
photo: 本誌・田中里史  
layout: 本誌・田中里史

## 7 特集 最高のドラマを完全レポート! そして…、王者・萩野孝之の【ペレ宙&ペレ底】を最速全公開! シマノジャパンカップ2004

## 21 チョーチン王・田中雅司の深宙奥義伝承【魚心掌握】 マルキュークラブ対抗選手権大会

## 29 棚網 久【あなたの夢を叶えます。】 がまかつチーム対抗戦東日本大会

秋の  
トーナメント  
スペシャル!!

### COLOR (カラー)

- 37 名手・石井旭舟がいく、へら鮒出合い旅… へらぶな浪漫街道  
《第二十三回》秋の三名湖。冴え渡る技。
- 138 第11回わくわくフィッシングフェスティバル  
マルキューペアへら鮒釣り大会
- 44 生井澤 聡&山中いつ子の佐原水郷の四季  
《最終回》黒部川・新開橋 増水の悪条件の中 釣る
- 140 上州屋&VARIVAS ペアへら鮒釣り大会
- 118,146 原始釣人・稲毛利夫&真栗釣人・モロちゃんの純野釣り探求記  
アタリをちょーだい!!  
《最終回》和名沼、吉見大沼、天神沼 (埼玉県吉見町)
- 142 西日本川釣り紀行 北川穂積  
《第24回》旭川 (岡山県)
- 120 竹とともに生きる。  
《第16回》「京楽」作者 森田和男
- 177 戸張 誠 野釣り道場  
《第七回》【日中の相模湖・青田沖で釣る】
- 123 戦い続ける男、浅草へら鮒会、年間タイトルへの挑戦。小池忠教 激闘の軌跡  
《第9戦》10月例会:三島湖&豊英湖
- 183 岡田 清 Deep Side Angle  
《Vol.14》【ボトム・マジック】 筑波湖
- 130 田辺哲男の「それってどーゆーことよ!」  
《Vol.23》小林恭之【ブラックホール】第一弾  
驚異のペレ宙炸裂! 野田幸手園で驚愕の77kg!!
- 189 本音で迫るへら用品インプレッション。へらアイテムメッタ斬り!  
VARIVAS【沈むんでシュッ!】 (株)モーリス
- 134 吉川ひとみの「へらってヤバイわっ!!」  
《Vol.29》間瀬湖で幸せ〜…と思いきや!?
- 190 釣りの帰りに寄りたいたいお店  
《file.6》筑波流源湖至近【そば処 幸(さち)】のそば&うどん
- 192 フィッシングレディ  
《今月のレディ》小池弥広さん 野田幸手園 (千葉県)

### MONOCHROME (モノクロ)

- 50 ★エリアレポート
- 51 追分池 (北海道) 竹川正行
- 52 北部手賀沼 (千葉県) 本誌・伊藤洋一
- 54 八神大池 (岐阜県) 後藤 誠
- 55 赤祖父湖 (富山県) 山本一朗
- 56 甲南へらの池 (滋賀県) 前田誠志
- 57 甘木公園の池 (福岡県) 河口正伸
- 59 あらいしのぶの始めてみようよ、へら鮒釣り  
《第20回》「クリーンさいたま釣りの祭典」に大会参加しちやいました♡
- 62 トーナメンター小林恭之が挑む! 竿頭までぶっ飛ばせ!!  
《第12回》「シマノジャパンカップ 関東B予選」&「わくわくフィッシン  
グベアへら鮒釣り大会」&「NHCTーナメント関東シリーズ第5戦」
- 66 NHCスピリット  
《Vol.15》青木政幸 in 清遊湖
- 73 江成公隆のトーナメンター、復活への道。  
《Vol.30》而立+4!? in 椎の木湖
- 82 そんなモジリにダマされて… 天野正由  
《その12》昨日までは良かったのに… 芦ノ湖〜宮沢湖
- 88 水辺のプラネタリウム 吉本亜土  
《今月の星空》「後悔日誌」
- 93 元気が出るへら鮒 西田美明  
《第24回》「そこに山があるから」登るのだ、の巻
- 98 最狂へら戦士養成所“鮒の穴” 漢タカハシ  
《第二十二話》【<sup>Here We Go!</sup> 韓流でビューイコー! へら鮒捜索隊 in 茅沼】
- 102 野田幸手園新聞
- 104 ワクワク管理釣り場情報
- 108 小売店情報
- 152 竹竿&合成竿で未開の釣り場を楽しむ! オデコバンザイ!?  
《最終回》利根運河周辺 (千葉県)
- ★へら鮒BOX
- 157 里ちゃんの新米編集長雑記
- 158 情報発信基地
- 160 ボイス
- 166 コラム『夢中と書いて夢の中』 伝道師P
- 167 コラム『日研だより』 日研広報部長・遠藤克己
- 168 コラム『へら狂おやじと呼ばないで』 白石和弘
- 169 コラム『紀州“想いの竹”のものがたり』 中峯伸行
- 170 全協協・日研 平成16年度放流日程表
- 171 第18回 放流協賛「横利根川へら鮒釣り大会」
- 172 釣果予想クイズ
- 174 プレゼント発表
- 175 広告索引
- 176 編集後記

※杉山達也【SPLASH BEAT III】は、ページの都合により今月はお休みさせていただきます。ご了承ください。

### STAFF

●Producer  
根本百合子

●Editor in chief  
田中里史

●Editor  
大場勝良  
諸富一秋  
伊藤小百合  
伊藤洋一

●Planner  
〈オフィス・えび〉  
藤原 肇

この物語は、  
栄光、そして挫折を味わい、  
今、再び這い上がろうとする一人の男の人間ドラマである。

# 江成公隆の トーナメント、 復活への道。

text and photo by Kimitaka Enari and Satoshi Tanaka  
美奈初、Web運動企画！ (URL) <http://hesar.yokohamatsurumi.net>

## 「一歩進んで二歩下がる!?!」

〈Vol.30〉

# 而立+4!?! in 椎の木湖

ブログ。

秋はメジャートーナメントの全国大会が集  
中する季節。編集者という立場から言えば、  
毎年この時期は年末と同じくらいのハードさ  
で、里の体はポロポロになる。今シーズンは  
予選さえ通過出来なかつた江成でも、秋は  
超・多忙なシーズンのようだ。考えてみれば、  
釣り以外にも秋はイベントが目白押しの一  
シーズン。

町内会の役員を務める江成にとってはこの  
時期、土日の休日は無いと言っている。あつ  
たとしても、全て町内会活動に捧げられてし  
まうからだ。そして年に一度のそのビッグイ  
ベントとは、言うまでもなく「祭り」である。  
江成は「自分は別に、お祭り大好き人間では  
ない」と言う。日頃のハチャメチャな江成を  
見ていると、「ホントかい?」と感じてしまっ  
が、とりあえずそれは置いておこう。仮に  
「好き」だったとしても、立場上、裏方に徹せ  
ざるを得ないことは容易に想像できるのだ。

家庭、仕事、趣味、ボランティア...その昔、  
ただのイケイケ兄ちゃん?だった江成も、責  
任ある大人になった。様々な関係性の中で己  
の存在を問いつつ、彷徨い、揺れる日々。だ  
がしかし、ブレながらも決して踏み外すこと  
のない軸足。...こんな書き方をすると江成が  
とてもカッコよく見えるような気がするが、  
冷静に考えればこれは、多くの大人が普通に  
抱える現実である。つまり、いつも書いてい  
ることだが、江成はどこにでもいる「本当に  
普通」の大人なのだ(その「普通さ」を文章  
に表せるところが江成の非凡さではあるが)。  
だからこそ多くの読者の共感を得られたと思  
うのだが、里は江成に対し、尊敬の念すら湧  
く。というのも、現在のシーンをリードする  
若手スターの中には江成の同期が少なくない。

若かったとはいえ、「この道で食いたい」とま  
で勘違いした男が悔しくない筈がないと思っ  
たのだ。特に全国大会が集中するこの時期は、  
江成の悔しさと寂しさはピークではないだろ  
うか...。そんなどうしようもない衝動を抑え、  
一線を飛び越えずに踏み止まる勇気。

実は先日、とある方から里を通じ、江成に  
驚愕のオファーがあった。パリパリの現役ト  
ーナメンターに、ではなく「現在の江成」を  
指名して、である。里も同席したその話し合  
いの内容は、残念ながら詳しくは書けない。  
が、金銭面では破格の提示であったとだけ記  
しておきたい。里も生まれて初めて聞いたよ  
うな金額が会話の中で飛び交い、話し合いの  
場となったファミレスの他のお客さん達は、  
さぞ驚いていたことだろう。江成自身も一生  
に一度あるかないかのチャンスだと重々承  
知していたと思う。二人の駆け引きは、ここ  
らがハラハラするほど見応えのある真剣勝負  
であった。

数時間に及ぶ交渉の末、江成は首を縦には  
振らなかつた。今、しがみついているささや  
かな「安定」。この不確実な世の中で、たとえ  
それが「幻」だとは分かっているが、今以上  
にリスクを伴うアクションは起こせない。そ  
れが江成の気持ちだった。結論はまだ出てい  
ないことになってはいるが、江成の意志は固  
く、第三者である里から見ても、交渉は決裂  
したように感じる...

世の中には「勇気ある撤退」という言葉が  
あるが、臆病者のただの言い訳だと思う人も  
いるかもしれない。結果を度外視するならば、  
飛び越える勇氣の方が尊い、という見解だ。  
これは人生経験の浅い里には答えの出せない  
難しい問題であると思う。もしかすると成功  
はほぼ確実というケースもあるのかもしれない。  
しかし、ここで見落としてはならないのは、  
たとえ一瞬であつても守るべきものを  
危険にさらす瞬間があるということだろう。

結果オーライでは済まされない事実が刻まれ  
てしまうということだ...

...ところで、小見出しにピンと来たそのの  
あなた! 鋭いですね。そうです! いつ  
もなら里のコメントに小見出しはつかないん  
ですよ。しかも「ブログ」というからには  
当然、次のページに続いていくわけですね。  
もちろん続きも里が書いています。江成では  
ありません。今月は99%里が書いてます。江  
成は鼻毛ほどしか書いてません。もう一度言  
います。今月は里が書いてます。今月の江成  
はノーギャラで当然だと思つた方、ぜひ編集部  
までお便り下さい。待つてます!♡

仮面ライターの里ちゃん。

9月の末には江成から、12月号の原稿は厳  
しいと言われていた。実際に江成は過去に何  
度も原稿を落としているし、里からも「落と  
してもOK」という条件で始まった企画では  
ある。しかし、今回はこちらも死んじまいそ  
うなほど忙しいのは理解してもらえたので安  
心していた。残る問題は、取材をするか否か  
であった。江成は取材ナシでも原稿のネタに  
は事欠かない。1カ月分くらいなら簡単に捻  
り出してしまふ。どうしても日程の調整が困  
難であれば、最悪それも仕方がないと思っ  
たが、先月号はコテコテの野釣りに出掛けて  
しまったため、今月は何としてでも軌道  
修正したいところであった。そこで里が提案  
した取材場所は、トーナメンターならずとも  
全国からファンが集う関東屈指のフィールド  
の一つ、椎の木湖。日曜日は満員でお帰りに  
なるケースもしばしばという超・人気フィ  
ールドに、平日釣行という贅沢さ。

「好きなだけ釣ってみて下さい! (ただし釣れ  
るものなら)」

平日でも椎の木湖はアマクはない。今後も

江成が「トーナメント復活」路線でやっていけるかどうか、見定めたい気持ちもあつての提案だった。

「え〜？ 亀山でリベンジじゃないのぉ？」

「取材以外で行って下さい」

「復活しなかつたっていいんじゃないの？」

「それは、頑張った結果の話ですよ」

「…分かったよお、ちえっ！」

半ば強引に椎の木湖に決定したが、若干の不安が残った…。

取材当日の10月5日、土砂降りの椎の木湖。寝坊した里が到着すると、江成はまだ釣りをしておらず、クラブハウスでくつろいでいた。テントを忘れてきた江成は、あまりの降りっぷりに棧橋に下りる気を完全に削がれてしまつていたようだ。

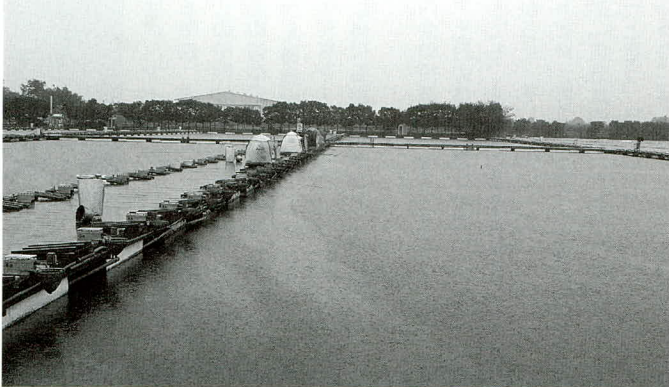
その場で偶然に居合わせた石井旭舟御大に、「君たち、取材なんだから早く行つたらどうだい（笑）」とせかさされ、ようやく重い腰を上げた時には9時を回っていた。

雨支度を済ませた江成は、仕掛けを作り始めた。やはり今回の取材も万全の体勢で臨むのは無理だったようだ（それならクラブハウスで作っておけばいいものを！）。仕掛けを現場で作るのは不真面目だなんて、現在の江成に里はとてもないが言えない。「これがリアルということなんだよな」とは確かに感じたものの、取材としてはどうだろうか。管理釣り場での取材にロマンは求めにくい。今回、釣りの内容的には特にテーマを設けていなかったが、基本的には「どれだけ釣ったか」しかないのである。それが現在ばかり釣れない釣り人の企画だったとしても、だ。いやむしろ、インストラクターやトップトーナメンターではない釣り人の企画こそ、結果だけが問われ、その内容は問われない。なぜならそのノーガキに耳を貸す者はいないからだ。…時刻はすでに10時近い。大釣果は望めないし、

先着者を抜いて竿頭になれる可能性も極めて低い。終了までに、いったいどんな釣りを見せてくれるのだろうか…。

正直に告白しよう。実は、江成が第1投目を打つ前に、里はこの日の取材は失敗だと感じた。しかし、それはそれでいいとさえ感じてしまつていたのだ。江成ならどんな状況であっても、何とか記事にしてくれる。取材のやり直しも必要無い。容赦なく降り続く冷たい雨は、里の編集者としての立場を洗い流すのに十分であった…。

大風どちゃぶりの椎の木湖♡



8メートル両ダンゴ。開始早々に数枚を引つ張った江成だったが、後が続かない。まさにこれこそ多くのアングラーが味わう典型的なハマリ方である。平日の激活性の前に、このまま不術なく崩れ去ってしまうのか…。「アニキ、平日でもなかなか難しいっしょ〜？」

「うん、でも最高に面白いっしょ〜？」

管理へ来たけど、燃えるね！ 型は揃わないかもしれないけど、俺の昔のエサでもいけそうなのはする」

この時里は、江成のただの強がりであると思つた。しかし江成は徐々にペースを上げ始め、厚食で釣り座を離れるまでに、一気に40枚をカウントしてしまつたのである。

「アニキ、そろそろ飯でも食に行きましようよ〜」

「マジ？ この風で席を離れたらヤバくない？ パラソル飛んでいっちゃうぞ〜？」

「そんなこと言つてえ〜！ 中断したくないだけだよっ！」

「…まだたいして釣りやってないじゃんかよオ、せつかくイイ感じになつてきたつていうのにい〜！」

「じゃねーの？ 今日なんて」

「…」

「…ねえ」

「…」

「…ねえ？ ……」

「それが難しいんですよねえ」

「…早く言つてよオ！」

「ギヤハハ〜！ 自分で言つと思つたア！ だから黙つてたんですよ（笑）」

「君の行間もお見通しだっちゅーの（笑）」

「まあでも、エサがキチンと付いているだけではイレバクにはならないでしょうから、大したもんですよ。午後からブツ切っちゃつて下さいな。…って、これで満足ですか（笑）」

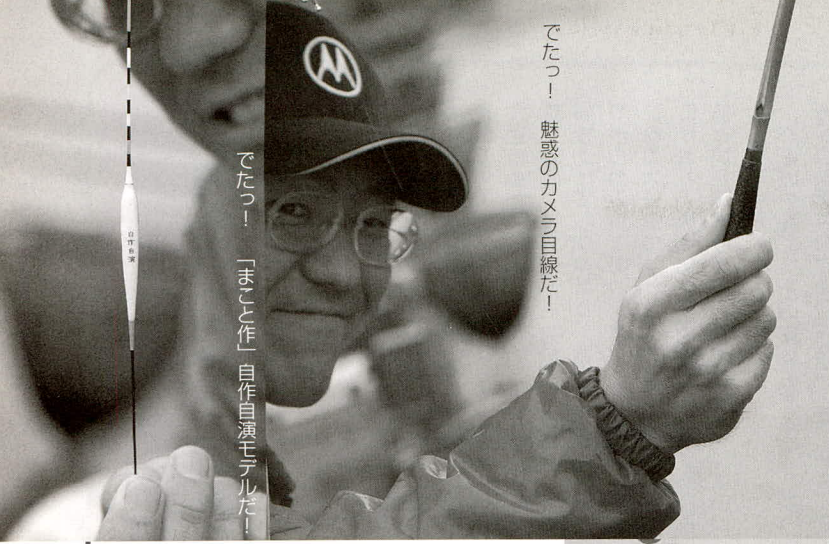
「ふーんだ〜」

（この時点でクラブハウスのパソコンモニターは、江成が暫定1位であることを示していた〜）

厚食を終え、ちようど12時。残り時間は4時間ある。午前中のペースをそのまま持ち込めれば一束オーバーは可能な筈だったが、アクシデントが連発する。まず、再開直後に仕掛けがグチャグチャに絡まつてしまった。しばらく解こうとモンモンやってたようだが、江成は結局あきらめて作り直した（最初からそうすればいいのに！）。また、5月のメジャートーナメント予選以来、一度も結んでいないハリスがついに底をついてしまう。パラソルテントが風でバタつく音に混じつて度々、ハリ結び機のモーター音が聞こえてくる。大型中心の椎の木湖では、いかにトラブルを少なくできるかという点も、釣果に大きな差となつて表れてくるのだ。

「やっぱこれが現在の江成なんだよな…」

吹き込む雨にもめげず釣りに没頭する江成を見つめていた里は、再び竿頭も一束もどうでもよくなつていた。雨にうんざりしていた里には早く帰りたいという気持ちも確かにあったが、時間の許す限り、江成に釣りを楽しんでもらいたいという気持ちになつていたの



でたっ！ 魅惑のカメラ視線だ！

でたっ！ 「まこと作」自作自演モデルだ！



でたっ！ 恐怖の超短バリスだ！



だ。途中、雨足が弱まった一瞬をついて、石井御大と同行のお仲間が帰っていても、江成に帰ろうとは言わなかった。この雨の中でも心から楽しめる江成のピュアさ。仕事で嫌でも釣り場に向く里と江成とは、一回の釣行の重みが違うのである。

「最後まで放っておこう...」

益々激しさを増す雨の中、里も釣りを開始した。

どれくらいの時間が経過しただろう。モーター音をしばらく聞かずにいながら、気がつく。

「ふーん」

里の不安をいい意味で裏切り、当初の目論見通りの素晴らしい結果を叩き出してくれた江成。これが月イチ釣り師が出した釣果だと誰か信じよう？ やはり江成はタダ者ではなかった。「トーナメント復活への道」というテーマを掲げるに相応しい人材だという事は、十分に証明出来た筈である。この企画は現状維持のまま、今後も自信を持ってお届けしたい。

...だが江成も今回の原稿だけは書けなかったようだ。完全にアテにしていたので裏切られた気分だが、一瞬でも「取材が失敗」と感じてしまった里への罰ゲームであるような気もしないでもない。でも、次号はお願いします...

「アニキ、何枚になりました？」

「108枚。ていうかもう、納竿時間だよ(笑)」

夢中は夢中を呼ぶ。江成の横で、里もすっかり楽しんでしまっていたようだ...

最終釣果 108枚 63・3キロ(椎の木湖さんのHPに載ってます。ぜひ見てネ！)

二番手に12キロもの差をつけ、文句なしの竿頭を奪取。しかも正味6時間あるかないかという実釣時間は、実に時間当たり10kg以上のペースという計算になる。つまりこれは、朝からやれば100kgオーバーも楽勝だったということになってしまふのだ！ 連載開始以来初の大爆釣に、里の興奮は収まらない。

「アニキ、やってくれましたねえ！」

「平日だもん、誰でも釣れるよ」

「またあゝ珍しく謙遜なんかしちゃってえ〜！でもその辺は読者が判断することですから。それに天笠さんとの対談の中では、平日も休日でもどちらも難しいという結論になっているわけですからネ。あの対談はものすごい反響があったんですよ、実は」

**新バージョン登場!! 【セミロングスタイル・ソリッドムク】**

熱い要望に応え、ついに登場。  
速攻の両ダンゴから段底まで、用途は自由自在！

- ボディは羽根2枚合わせ6mm径で必要十分な浮力
- 厳選されたスローターバー1mm径ソリッドムクトップ
- サイズ：一番 (T20cm B8cm カーボン足8cm)  
~五番 (T28cm B14cm カーボン足8cm)
- 好評発売中(問い合わせは下記釣具店まで) 定価1本6,825円(税込)

取り扱い店(五十音順)  
 埼玉・越谷 かわけみ (☎048-969-5067) 茨城・下妻 こやの釣具 (☎0296-44-1619) 東京・渋谷 サンスイ川釣り館 (☎03-3499-5025)  
 埼玉・入間 へらの三水 (☎042-964-2093) 栃木・益子 フィッシングハウスほもの (☎0285-72-2215) 神奈川・川崎 鮎仙人 (☎044-287-7470)  
 東京・吉祥寺 丸勝 (☎0422-22-8923) 東京・青梅 吉川釣具店 (☎0428-22-2467)

へら浮子 **杉山作**

## エピソード。

今回の江成の締めきりは22日の午前中に入稿という約束だった(これでも、他のライターさんが聞いたらぶっ飛びじゃうほど遅い、特別措置)。月末には読者の手元に届く本であることを考えれば信じられないかもしれないが、手直しがほとんど要らない江成だからこそ許される締めきり設定ではある(とはいえず今回は時間が無いというので特別に遅い設定)。気分が乗れば3カ月分もの原稿を一気に書き上げてしまったり、逆に締め切りを過ぎてからの入稿であったり…。江成はまるでどこかの大先生のようなのだが、モノクロのページにかかれるのはいつも印刷所へ入稿する数日前という現実もある。編集部内もいっばいいっぱいなのだ。

22日の午後にはその原稿をチェックして、そのまま張り付ける予定だったが、日中、江成からは何の連絡もなかった。しかし、とほけてこのまま原稿を落とすような人間ではないと信じていた。そして夜遅く、やはり江成からの連絡があった。

「わりわりい！ 連絡出来なくて「コメンね！原稿は出来たから♡ いつもこのところにプチ込んであるんで、テキストに持って行ってねー！じゃー」

「ヤレヤレ。いつもハラハラさせてくれる人だよ、ホントに。ま、レイアウトだけだから徹夜する程でもないしな〜」

ホツとしながら原稿を見た里は、いつもながら長電話の江成が手短に切った意味を知ることになる。

里くんへ…椎の木湖での釣りについては、俺ごときが特に書くことはない気がするので、適当に頼む。ていつか時間切れて感じ？

明日から祭の本番なもんで。「椎」て言えば(大爆笑)。まこと君のウキをアップで頼むよ。俺の原稿は困み記事くらい量の量だから、字を大きくするとかじゃなくって、思い切った本文を里くんを書いて面白くしちゃいな？ どう？ 今月は交代!! みたいなの。うん、ナイスアイデア! 4649 (原文ママ)

「笑」えないよ…。23・24日はG杯全国大会(取材じゃありません! 里も選手として参加!)のため、編集作業は不可能だ(私用ということになるので文句は言えないが…)。そして26日は印刷所の締めきりである。と、いうことは…

「なーんだ♡ あと一日あるぢやないかっ! まったくアニキつたら〜」

里は江成の大いなる優しさに包まれながら、翌日のG杯に備えて寝てしまった。「ウソツタレ〜!」(実はこの時点で、カラー2本の原稿とレイアウトが残っていたのだ…)

25日深夜。G杯でへろへろになった身体と、連日の編集作業ですでにレッドゾーンを越えている脳味噌に、さらに鞭を打つ。カラー2本と江成の記事。いったいどないせいつちゅうねん…。今さら頁を減らすことは出来ない。真っ白な頁をなんとかして埋めなければならぬのだ。

「この際、真っ白なままメモ帳ってのはどうスか〜編集長!」

「…ぜんぜん面白くないですね、編集長!」

「やだなあ〜冗談ですよ! 編集長つたら〜♡」

里以外にすでに誰もいない編集部。完全に壊れながらもパソコンに向かう。そして、気が付くとキーを叩いている自分がいた(いや、「いた」ではなく「いる」だナ。現在進行形なのだ。by思い付いた事を片っ端から書き連ねている里ちゃん。自分で書くのもどうかと思うが、我ながら「プロだな」と思ってしまう。

もちろんそれは、文章の上手下手ではない。仕事である以上、「出来ませんでした」では済まされないといいことなのだ…。

里が江成の「ファンである」ということは自認しているが、最近ではその「釣り」よりも「文章へのウェイトが高い」気がしてならない。もちろん江成より文章の上手い者はいくらでもいるが、釣りや文章のレベルが江成ほど高い次元でバランスしている者を、里は知らない。

実は江成に対し、過去に何度か別企画でのライターをお願いしてきたが、里はその度に断られている。時間的な問題ももちろんだが、「好きな事を好きなように好きなだけ」書けなくなるのは嫌だし、好き嫌いの問題以前に、制約の中では書けないだろうと言うのだ。

「自分はプロではない」のだと。なるほど江成らしいと思った。プロならば、原稿の量に変動があつては困る。与えられた字数で収めるのは当然なのだ。いつもの江成のように「ページが足りない」字を小さく」というのは、要約が出来ないということに通じるし(里は江成に対してそうは思っていない。足りない頁を提供しようという他誌まである程なのだ! 嘘のようなホントの話である。業界には江成の隠れファンが多い)、ましてや今回のように字数が全く足りないようではお話にならないのだ。しかしそれは、「プロであれば」という前提でこそその話である。この企画が読者投稿だとは言わないが、江成はプロの書き手でもない。そこを読者の皆さんにはぜひ汲み取っていただきたいのだ。トナメント参戦をテーマに掲げながらも脱線しまくり、業界に何のしがらみもない一般読者の代表として自由奔放にモノを言う企画。そんな企画が他にあるだろうか? ある時は読者の、またある時は里の気持ちを代弁してくれてはいないだろうか? どうか、細かい所には目をつぶっていただきたい。

江成の持ち味を最大限に発揮させるには、里と江成の関係は今のままが一番いいと感じている。たとえ月末に泣きながら江成のケツを拭くハメになったとしても…。

「おんどりゃ〜!」

\* へら鮎社では現在、江成の自宅内のサーバを間借りしているのだ。江成も管理者として自由に出入り出来る。そのため江成とのファイルのやりとりは、最近ではメールではなくサーバを介したやりとりになっている。

次ページには、真正正銘、江成から届いた12月号用の原稿を掲載させて頂く。

たったこれだけ。

しかも、せっかく取材までしたのに、椎の木湖のしの字もない。

今回のテーマ、取材とは全く関係のない、NHCCネタである。いったいこの人の思考回路はどうなっているのだろうか…。

これを読んで、里が発狂したのは言うまでもない。賢明なる読者の皆様方、里の気持ちをどうかお察しください…。 by里ちゃん



アニキ、椎の木湖の取材って、いったいなんだったの…。里の貴重な1日を返してくれえ〜!!!

9月23日、羽生吉治で行われたNHCC第5戦に参加した。ここまですでに2戦を欠席している僕にとって、全国大会への参加は絶望的だが、NHCCの試合には、常に夢とスリルがあるのだ。

第1戦の同沼では長竿のパワーをまざまざと見せつけられていた。そこで今回、僕も24尺を持ち込んでみた。底釣りはコイが多いという情報も耳に入ったが、手堅くまとめる理由が今期の僕にはすでないため、狙うは優勝のみである。

今回の僕もファーストは無難にまとめた(つもり)。順位にして15番前後だったと思う。いい順位とは言えないが、全く目がない順位でもない。むしろセカンドは思いっきり攻められる順位だ。

ファーストステージでは終了間際はイレバクであった。コイは1本か2本だったと記憶している。セカンドではファースト以上に釣り込み、逃がし倒していく作戦。結果としてリミットの結果を踏まえ、キープとリリースの境界線を600gに設定。この日の羽生は、自慢の超大型がほとんど口を使っていない。600gを逃がしてはいるがリミットは揃わないと踏んだ。その中に1枚でも大型のへらが混じればいいという作戦である。

実は今まで、僕はNHCCではへの目方は目見

# 釣番付

料金表

50名まで	55,000円
51名～75名	60,000円
76名～100名	65,000円
101名～125名	70,000円
126名～150名	75,000円
151名～175名	80,000円
176名～200名	85,000円

- ・仕上がりは黒一色です
- ・人数は成績表部分のみ数えます

書体見本

- 1.ぐりへの鮎会
- 2.ぐりへの鮎会
- 3.ぐりへら鮎会

- ・番付をインターネットで公開できます(無料)

お問い合わせご注文はお早めに!

取扱店: 柴舟 03-3613-2727

## ウキや小物の絡入れに 転写シール

初回注文黒一色、300銘で8,500円～  
2回目以降同じものをご注文の場合は3,500円～

- ・8書体、8色を御用意しています
- ・角印も作れます

取扱店:

- 柴舟(東京都江戸川区)  
03-3613-2727
- 佐伯釣具店(神奈川県川崎市)  
044-911-3722
- SANSUI川づり館(東京都渋谷区)  
03-3499-5025
- フィッシング中原(神奈川県川崎市)  
044-711-8266
- 鮎仙人(神奈川県川崎市)  
044-287-7470

お問い合わせ、ご注文は各取扱店  
または下記HPまでどうぞ

office27  
あとりえぐり

http://www.office27.com  
E-mail:info@office27.com

当で釣ってきた。今年の第1戦でも自動検量機は使わなかったし、ハカリを持参する事もなかった。しかし、真後ろの都祭君を見ならぬ、キッチリ量ってみる事にした。自分で設定した600gに10gでも足りなければ即リリース。そう覚悟を決めて検量機のスイッチをオン。開始の合図を待った。セカンドステージ。へのの状態はファーストより明らかに向上していた。使い込み過ぎて色が褪せてしまい、かなり見にくい自作ウキのトップが逆に幸いし、余分な動きに手を出さずに済んだ。しかし、見事に580gと590gのへらしか釣れてこない。

「こんな事ってあるんだな...」

僕はちよつと感心してしまった。こんな釣りはそうそうあるものではない。だが残念な事に、この日は量目勝負ではないのだ。イレバクであるにもかかわらず、1枚もフ راشシに入れられない焦り。ちよつとルールを変えてみるだけで、今まで全く経験をしたことのない気分を味わう事が出来る。は、何とも不思議である。僕はこの不思議さに魅せられて昨年からのNHCCへ参加しているわけだが、今回の僕が自分に設けた新しいルールは、一段とスリリングな楽しめ方を教えてくれた。というのも、もし僕がセカンドでも検量機を使っていたら、さつさとフ راشシに入れていたはずだ。そして4枚を取めたところでリリースかキープかを判断していただろう。「あと1枚」からリミットが揃わなくて

もいという覚悟と、のっけから揃わなくてよいという覚悟では、緊張感に天と地ほどの差がある。昨シーズン、常に上位をキープする事は出来ても優勝出来なかった理由はここにあると見た。

10枚目にして、ようやく600gジャストのへらが来た。冷静に考えればこのへらも、580gのへらと同じ群れだろう。もしかすると検量機の誤差の範囲内であると言えなくもない。ここでふよつては600gだったのではないかとこの疑念が生じてしまった。次回はハカリを持参しよう...。

およそ20枚目にしてポナスと呼べる900g弱のへらをキープ。次の1投でも640gをキープ。これで3枚。「ビッグウェイブ」と興奮してくるが、その後はまた、580gの風...。

ラスト30分。風で波が立ってしまい、本当にトップが見づらくなってしまった。

「もう、どんなに小さくても入れちゃうぞー」

だが、スレ、スレ、スレ...。ようやく食ってきたのは540gしかなかったが、僕はフ راشシへ入れた。今思えば僕のセカンドはこの瞬間に終わっていた。結局4枚でセカンドを終了。リミットを揃えられない覚悟はしていた筈なのに、後味の悪さが残った。それはやはり、540gのへらを入れてしまった事に尽きるだろう。風が出てからは1枚しか釣っていない訳だから、入れようが入れまいがリミットは揃わなかったのだ。ならば3枚で潔く終了を迎えるべきだったのではないか...

片付けていると、都祭君に声をかけられる。僕は大きくしながら釣っていたため、彼は僕の釣況をほぼ把握していた。

「ちゃんと量ると見えてくる事ってあるんですか」

彼の一言は、この日の僕の全てだった。

「そうなんだよね。あそこまで揃っちゃっていいのは、実はダメサインだって事なんじゃない?」

「その通りです。結果として江成さんは900gラムをゲットしていますが、20枚に1枚しか混じらないという事は、単純計算で100枚釣らなければならぬ訳です。どんなにイレバクに出来たとしても、NHCCの短時間ではまず不可能な数字です。僕なら釣り方変更し賭けますね」

「なるほどなあ。でもオレ、はじめてリミット揃わなかったんだよ。ちよつとショック...」

「え? マジですか? なーんだ、初めてだったんだあ...。じゃあこれで、やっとNHCCのスタートラインに立てたって事です(笑)」

「先輩、ありがとうございます! これからも御指導宜しくお願いします!」

「もちろんですよ。何でも聞いて下さい(爆笑)」

表彰式が終わる、成績表が貼り出される。よせばいいのに、もしリミットが揃って「たら」、いたい自分は何着だったのか見に行く。

「...岡田くん、5着っていくら貰えるんだっけ!」

\*NHCCへらぶなトーナメントでは順位点方式を採用しているため、グラムの僅差であっても明確にはつきりと分かれてしまふ。

へら鮎釣りの楽しさを追究し続ける…

# へら鮎

Monthly fishing magazine herabuna

No.468  
2004 Dec

# 12

**戸張 誠** [野釣り道場]

日中の相模湖・青田沖で釣る!!

**田辺 哲男** [それってどーゆーことよ!?!]

ペレ宙、野田幸手園で炸裂!  
小林恭之、驚愕の77kg!!

**岡田 清** [Deep Side Angle]

孤高の底釣り理論で、  
筑波湖のモンスターを獲る!!

## 特集

# シマノ ジャパンカップ 2004

最強トーナメント、狂乱の舞台…。  
【富里乃堰】に渦巻く最高のドラマを完全レポート!  
そして…、二連覇王者・萩野孝之のウィニングパターン、  
【ペレ宙&ペレ底】を最速で全公開!!

連載運動、メジャートーナメントコラボレーション!

**田中 雅司** [魚心掌握]

マルキュークラブ対抗選手権大会

**棚網 久** [あなたの夢を叶えます。]

がまかつチーム対抗戦東日本大会



# お待たせ しました。

そのまま使える粒状くわせ。  
便利で釣れる人気者。

冬のくわせの新定番として、すっかりおなじみの「力玉」。今シーズンも、いよいよ出荷スタートです。ピンから取り出し、ハリに刺すだけの粒状わらびウドンタイプ。使いたいとき、すぐに使える便利さが人気です。ベトつかないからハリ付けしやすく、素早い手返しが可能。浅ダナ、チョーチン、段差の底釣り、釣り方も選びません。常温保存ができるのも、うれしいところ。



3月出荷分  
までの  
限定販売。

●力玉  
(ちからだま)

つれるエサづり一筋  
**丸マルキュー**

昭和41年5月4日第3種郵便物認可  
第39巻第12号(毎月1回1日発行)  
平成16年12月1日発行

定価 1000円 本体九五二円

**丸マルキュー株式会社**

〒363-8509 埼玉県桶川市赤堀2-4

お問い合わせ 本社・桶川工場:048-728-0909 大阪支店:072-824-0909  
含みせ 四国営業所:0877-44-0909 九州営業所:0942-82-0909  
ホームページアドレス <http://www.marukyu.com/>

釣り場でエサに困ったら  
Eメール・ホームページ  
<http://www.marukyu.com/i>

